

あいあい



★第6回ふれあい福祉まつり

晴天に恵まれた2月2日、西原小学校体育館では9時からバドミントン大会が開始され、校庭では餅つきの準備が始まった。社会福祉協議会の歳末助け合い配分事業として行われるようになった第6回ふれあい福祉まつりである。

バドミントン大会には例年以上の40人を超える家族連れや小中学生が参加。11時まで熱戦が繰り広げられた。

一方コミセン2階の会場では、10時半から「プランニューサムシング」によるゴスペルコンサートが行われた。代表の山中陽子さんは全国大会での優勝、宇都宮市民賞受賞など評価も高く、現在では県内多数のチームを指導する。西原小学校100周年を機に結成された「ウエスト フィールド」の2名も参加していた。聴衆は時間を追うごとに増え70名ほど。教会の讃美歌を中心に「聖者の行進」や「オーハッピーデイズ」などお馴染みの曲を加えて、パワーあふれる歌声とパフォーマンスに会場は大きな拍手に包まれた。

終了後は、校庭に移動。参加者一同、立春を前にして、温かな日差しの下で、用意されたあんこや黄な粉、からみなどの餅や、温かい汁に舌鼓を打った。



主な内容

- 表紙 ふれあい福祉まつり
- 2P 地域PTA文化祭
- 3P どんと焼き
- 4P 趣味ゆうゆう など

★第49回西原地域PTA文化祭

ゆつたりと盛大に！笑顔あふれた文化祭



11月27日第49回西原地域PTA文化祭が西原小学校とコミセンを会場に盛大に行われた。
10時から北校舎のわかば会第2保育室で行われたバザーは相変わらずの大人気。体育館前の社会福祉協議会と民生委員による「盲導犬と車椅子の体験」隣のテントでは、健康づくり推進員の「体力チェック」南校舎ではエコキャップを手にして子ども達が行列する「おやじの縁日」など、お馴染みの催しに今年も賑わっていた。
校庭では、お囃子の演奏が雰囲気盛り上げ、模擬店の売れ行きも上々。体育館では一条中の吹奏楽部の演奏やよさこいソーラン、空手など、子ども達の元気な演舞が続いた。
コミセンでは26日から作品展が催されており、地域の人たちの力作は訪れた人に大きな驚きと感動を与えていた。
あちこちに笑顔があふれ、小春日和のゆつたりとした充実した一日となった。



◆新民生児童委員紹介

3年毎に改選される民生児童委員。昨年12月1日付で4名が改選されたので左記に紹介する。

◎ありがとうございました

- 君嶋千鶴子 (5期 15年)
- 山形昇 (3期 9年)
- 吉村蓉子 (2期 6年)
- 小牧俊夫 (2期 6年)

◎よろしく願います

- 長島幸雄・大寛2丁目1/4/8/10・操町5、8、9
- 西2丁目4の23/30/5の19/21/6の15/20
- 直井 操・京町全域
- 山形里子・新町1丁目
- 齋藤正一・西原1丁目・西3丁目33/42

介護のこと、福祉のこと、健康のこと、日常のこまり事は何でも相談を！
民生児童委員は適切な機関との間をつないで解決できるよう支援していきます。

◆体協でボーリング大会



11月3日、体育協会主催によるボーリング大会が第2トヨボールで行われた。40数名が参加して大盛り況だった。ストライクやスペアが取れると歓声が沸き、ハイタッチをして笑顔が溢れた。
優勝は、西原2丁目の片寄一男さん(67歳)。家族参加もあり世代を超えて同じレーンで楽しく競い合った。



★第30回どんど焼き

1月12日、冬恒例のどんど焼きが西原小学校校庭で行われた。お札やお飾りを燃やし、その炎にあたって一年の無病息災を祈るといふ伝統行事。

早朝から、婦人会、わかば会、PTAの保護者や児童が子どもでまゆ玉を作り、校庭にて赤、青、黄、緑、だいたい色のまゆ玉をみずきにつけた。

校庭では、YCC西原の中高生と一条中の6組の生徒がお飾りの可燃物の取り外しを行い、子連の役員が、外したお飾りやお札の積み上げを行った。

神主がお祓いをした後、点火。炎が勢い良く燃え上がり、約200名の参加者は、まゆ玉を火にあぶって、おいしそうにほおぼっていた。



◆にしはら支え隊より活動報告

平成30年から、地域で支え合い助け合う仕組み(協議体)を考えることを目的に、にしはら支え隊が設立され、順次活動の報告をしてきた。

昨年実施した西原地区全戸へのアンケートの結果を受けて試しに「草むしり」をやってみることに。次は「ゴミ出し」というように少しずつ地域で支え合い活動を経験してもらう機会を作ることを検討している。

2月22日のコミセン会議終了後には、13名のメンバーと行政側とで熱心な話し合いが行われた。コミセン会議出席の自治会長さんにはぜひ出席してほしい。関心のある一般の人達、誰でも自由に参加できる。

いにしえ 古を訪ねて



「自分らしく社会貢献」

六道町 有本善子さん(91歳)

六道町にお住いの有本善子さんは、西原地域合唱団「青蛙」の歌の練習や町内のいきいきクラブに元気に通う。長男が西原小学校に入学をきっかけにPTAの体育部長になり次男が卒業するまで務めた。運動会のPTAリーダーで長男の白いトレパンを履いて走ったことは楽しい思い出のひとつだ。

その後、得意だった卓球を生かして国体や市民体育祭等に地域の代表として76歳まで数多くの試合に参加した。卓球との出会いは、終戦3年前の中島飛行場(現 富士重工業) 青年学校一期生の時。戦闘機を造るために作られた工場内は常に憲兵が見回り部品作りが行われていた。そのような中、工場長が学生のために憲兵に隠れて卓球台を作り卓球を教えてくれた。戦火が激しくなると大谷石掘削跡地に機械が運ばれ、地下深くで作業が行われた。できあがった部品は江曾島飛行場で組み立てられたが、飛ぶ前に爆発してしまうことが何度もあった。そんな光景を目の当たりにした時、敗戦を予感したそうだが、結婚を機に一時遠のいていた卓球だが、子育てが一段落すると再開した。46歳の時に女性で初めて卓球連盟と市卓球協会の常任理事に起用され60歳まで務めた。当時の仲間とは現在も親交があり、毎年忘年会にはラケットを持って参加している。「押し車なしには外出できないにもかかわらず卓球台の前に立つとラケットを持って立てるんだから不思議よね」と笑う。

出会った卓球を通して自分らしく社会に貢献してきた日々は、時を重ね今なお明るく生き生きと輝いている。

あいあいサイト



今年度の新川さくら祭り
はコロナウィルスのため中止
となりました。

○新川さくら祭り



◆「流鏝馬」でお囃子の演奏
宇都宮の「流鏝馬」は鎌倉時代から二荒山神社の祭りでやってきた。今年は今和の記念行事として、初めて城址公園が会場となり、火焰太鼓や桃太郎山車が並ぶ前でははらお囃子が賑やかに演奏した。150mの長さの砂利が敷かれ、大勢の観客が見守る中、四人の射手が順に的を射っていく。当たると大きな拍手が送られていた。

◆令和に新装された神社と鳥居



大黒町、元吉村米店向かいに、三面大黒天を祀った神社がある。宇都宮の第九代城主の宇都宮公綱が建立した木像を石仏として新調。同時に社屋も建て替えられた。

◆令和元年10月
台風19号災害義援金
もう一つは、西原小北の通りから蓬萊町へ出た突き当りの天満宮。入口の大鳥居が新しくなり奥の公園と共に整備された。樹齢700年のいちじょうや「一金十円也」と彫られた石碑など興味ひかれる。暖かくなったら散歩しながらぜひ訪れてみよう。



◆令和元年10月 台風19号災害義援金

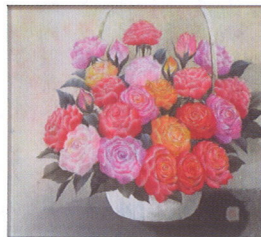
自治会を通じて集められた義援金が合計204,268円となり、被災地に贈られた。



●趣味ゆうゆう●

和紙ちぎり絵 瀬在 歌子

(埼玉ばらの会 講師)
花房1丁目



香りの嬌艶



実り



自画像

「あとかぎ」街の移り変わりを書くことによって、多くの人々の感性に届けることができる。先達が体験して築いてきた今日に思いを馳せて、そこから筋道を探してほしいと願いをこめて。